

令和8年度全国学力・学習状況調査結果について

みだしのことについて、本市全体の状況については、下記のとおりです。
なお、本年度は小学校2教科、中学校3教科（小学校…国語、算数 中学校…国語、数学、英語）の調査を実施しました。

記

1 本年度の各教科平均正答率

		国語	算数・数学	英語（３技能）	※中学校英語 は IRT スコア で示されてい ます。
小学校	本市	60	55		
	三重県	61	55		
	全国（公立）	60.9	56.4		
中学校	本市	62	57	497	
	三重県	62	56	494	
	全国（公立）	63.9	57.0	499	

※文部科学省は、微小な差異は点数的に学力の違いを示すものではないことから、平成29年度より小数点以下は四捨五入し整数で示しています。
※IRT（項目応答理論）とは国際的な学力調査等で採用されているテスト理論です。異なる問題のテストでも、学力を「共通のものさし」で客観的に比較できるのが特徴です。スコアは解答パターンから実力を推定し、500点を基準とした数値で表されます。

2 本市の小中学校の状況

- ・ **小学校 国語**：平均正答率は全国・県と同等であった。知識・技能では「情報の扱い方」に成果が見られたが、「言葉の特徴や使い方」に課題がある。思考力等では、文章全体の把握や情報の要約に成果があった一方、適切な根拠選びや論理的な記述には課題が残る。
- ・ **小学校 算数**：平均正答率は全国を下回り、県と同等であった。全領域で全国値を下回るが、記述式問題では前年度より改善が見られた。特に複数の情報を関連付ける記述力は大きく向上したが、基礎定着と数学的な表現力が課題である。
- ・ **中学校 国語**：平均正答率は全国を下回り、県と同等であった。知識・技能の短答式問題（言葉の特徴等）は一定の成果を得た。一方、記述式問題の複数資料から情報を精査し、自身の考えを論理的に構築する力の育成が課題である。
- ・ **中学校 数学**：平均正答率は全国・県と同等であった。「関数」領域で成果を上げた一方、「データの活用」に課題が見られた。根拠を数学的な言葉や式を用いて論理的に説明する記述問題が引き続き課題となっている。
- ・ **中学校 英語**：平均スコアは全国を下回り、県を上回った。情報の要点把握には一定の成果が見られたが、示された場面や条件に合わせて自身の考えや意見を英語で正しく表現し、記述することに課題がある。

		強み	弱み
小学校	国語	情報と情報の関係について理解すること	文章の特徴を的確にとらえること
	算数	2つの情報から分かることの根拠を記述すること	分数の仕組みで1の位置を捉えること
中学校	国語	辞書的な意味を踏まえた、文脈上での語句の解釈をすること	読解に基づいた自身の考えを形成し、記述すること
	数学	表やグラフからの情報を読み取ること	度数分布多角形を用いたデータの分析と説明をすること
	英語	目的に応じた情報を聞き取ること	要点の把握と意見の論述をすること

3 今後の方針

- ①「読解力」および「論理的思考力」を育む授業改善の推進：根拠を明確にして自分の考えを表現する授業づくりを推進する。研究推進校の成果を全校で共有し、教員の指導力を標準化することで、すべての児童生徒に対し質の高い教育機会を保障する。
- ② 個に応じた「きめ細かな学習支援」の充実：ICT（タブレット端末等）を活用し、個々の習得状況に応じた家庭学習や復習の支援を充実させる。併せて、少人数指導や小学校専科制の導入を促進し、基礎的知識から応用力までを確実に定着させる指導体制を整備する。
- ③ 調査結果の多角的分析に基づく組織的な学校支援：詳細なデータ分析に基づき、具体的な授業改善の視点を各学校へ提示する。自校の分析結果の公表と活用を促すとともに、顕著な課題が見られる学校に対しては直接的な指導・助言を行い、着実な授業改善を図る。
- ④「主体的に学習に取り組む態度」の育成：児童生徒が自ら学習内容や方法を選択する「自己選択学習」を推進する。自己決定の機会を確保することで学習意欲を喚起し、思考力が求められる困難な課題に対しても最後まで粘り強く取り組む姿勢を育成する。
- ⑤ 学校での授業と家庭学習の連携：デジタル学習教材を効果的に導入し、授業での学びを家庭での自学自習へと円滑につなげる学習サイクルを確立する。学校の授業と家庭学習の連携を強化することで、学習内容の定着と学力向上を図る。

【事務担当 教育委員会教育推進課 電話354－8255】